

文庫は人と人との交流の場、世代をこえて話す場 ～みんなが集う、ちいさな図書室～

うすゆきそう文庫（盛岡市）

団体基本データ（数値はH25年現在）

設立年度	平成12年5月
会員数	3名
主な活動場所	中屋敷公民館
主な活動内容	文庫、居場所づくり、おはなし会等

文庫の基本方針

子どもたちの為の本の選書を吟味し、本の貸し出しをする。来室される方たちに、文庫でのひとときを楽しんでいただく。

取組概要

〇うすゆきそう文庫

地域の自治公民館に私設文庫を開設しています。毎週木曜日の午後2時から午後5時まで、本の貸し出しをおこなっています。

〇子どもの居場所づくり

放課後子ども教室を開設し、読書活動を通じた子どもの居場所づくりを推進しています。

〇おはなし会の実施

おはなしの時間（毎週木曜日）、わらべうた・ねんねこの会（月1回）、なつよりのこわーいおはなしかい・クリスマスおはなしかい（毎年夏・冬）など、楽しいおはなし会を定期的に実施しています。



うすゆきそう文庫（私設文庫）

団体の特徴

平成12年に文庫を開設して以来、常に子どもたちのことを第一に考え、子どもたちが潜在的に求めている本を提供しています。文庫は「人と人との交流の場」「世代をこえて話す場」でもあり、その中で子どもたちが健全に育まれていくことを信じて、日々活動を続けています。

「語り手」としても幅広く活動しています。会員全員が語りに関する高い知識・技術を有するとともに、ストーリーテリング等多様な手法を効果的にプログラムすることにより、質の高い、充実した内容のおはなし会を実施しています。文庫でのおはなし会に加え、図書館、公民館、学校等で実施されているおはなし会にも、語り手として参加しています。

また、講師を招聘した各種研修会を企画・運営するとともに、自らも講演や環境整備等の支援活動をおこなうなど、県全域の読書活動推進に寄与する活動も展開しています。

東日本大震災発災後は、「3.11絵本プロジェクト」へ参加するとともに、被災地を訪問しおはなし会を実施するなど、各種支援活動を継続しておこなっています。



おはなしの時間（毎週木曜日実施）



中学生対象の読み聞かせ

● 取組の成果と今後について

うすゆきそう文庫は、子どもと本との出会いの場のみならず、親子や地域住民の触れ合いの場、語り手の交流の場として地域に定着しています。また「語り手」としての様々な活動は、子どもの読書活動を充実させることに加え、県内読書関係者の資質向上及び被災地の子どもたちの読書環境向上にもつながっています。

今後も子どもたちのことを第一に考え、地域に根ざした読書活動を展開していきます。

「親子で100冊読書日記」の取組 ～家庭における読書の習慣化～

下長山小学校実践区（雫石町）

団体基本データ（数値はH25年現在）

PTA会員数	55名
主な活動場所	下長山小学校実践区
主な活動内容	あいさつ運動、読書推進、家庭学習の習慣化等

事業の目的・趣旨

子どもたちに多くの本に触れた実感・達成感を持たせるとともに、保護者の立場としても子どもの読書実態に関心を持ち、良書に親しむ機会とする。

取組概要

○取組の方向性

- ①家庭や学校における読書時間の位置づけを目指します。
- ②「すき間読書」を工夫します。
- ③一定時間集中して読書する習慣を身に付けさせます。

○保護者の役割

- ①家庭での読書時間について助言します。
- ②一緒に読書をしたり、読み聞かせを行うなどします。
- ③子どもが継続して取り組めるように励まします。

○取組内容

- ①テレビ等をつけないで家族で読書する時間を設定します。
- ②1冊読み終わったら、読書日記に表紙シールを貼り付け、一言感想を書きます。
- ③途中で読みたくなくなっても、その理由を一言感想に書いて、他の本に進みます。（後で自分の読書日記を見直し、再挑戦します。）

特徴

フィンランドの小学生が副教材として使っている「読書日記」を参考にした「100冊読書日記」を活用した取組です。

「100冊読書日記」に挙げられている本を学校図書館に整備するとともに、読書ボランティアの方々による「読み聞かせ」や「ブックトーク」の際にも、100冊読書の本から選んでいただくなど、「100冊読書日記」を中核に置いた取組を進めています。

また、学校創立140周年記念事業の図書館整備作業では、読書が身近な存在になるような魅力ある図書室作りのために親子で取組んでいます。



100冊親子読書日記（2年）



100冊読書日記（5年）



読書ボランティアによる読み聞かせ



リニューアルした「図書館」

● 取組の成果と今後について

「100冊読書日記」を中心にした取組を行ったことにより、親子で読みたい（読ませたい）本がより明確になり、学校図書館整備の視点についても焦点化を図ることができました。

また、毎週行っている読み聞かせやブックトーク等の活動を通して各家庭への理解も進んでいます。今後も一層継続していくことにより、さらに多くの家庭への浸透を図っていきたいと思います。

読書イベント「もじもじ祭り」 ～多彩なプログラムでイベントを～

花巻図書館読み聞かせボランティアグループ もじもじクラブ（花巻市）

団体基本データ（数値はH25年現在）

設立年度	平成14年4月
会員数	21名
主な活動場所	花巻図書館
主な活動内容	おはなし会、読み聞かせ会等

事業の目的・趣旨

「図書館を丸ごと楽しもう」をスローガンとして、幼児から大人まで気軽に楽しむことができる読書、言語活動、創作活動等のイベントを開催し、読書活動推進と子どもの読書意欲の向上に資する。

取組概要

【実施時期】

11月

【場所】

花巻市立花巻図書館

【運営人数】

10名前後

【内容】

- ・図書館探検
- ・いつものお話会(3・4歳向け)
- ・エプロンシアターと手遊び
- ・紙芝居(賢治さんのお話)
- ・作って遊ぼう
 - ・お話紙血クルリンパ(乳幼児向け)
 - ・紙コップ人形(幼児～小学生向け)
- ・影絵遊びとマジック
- ・展示コーナー など



もじもじ祭り

団体の特徴

図書館等での紙芝居や絵本の読み聞かせのボランティア活動を年間130日以上実施しており、これまで多くの子どもたちと本の楽しさや読書の喜びを共有しながら、読書活動の普及推進に大きく貢献しています。

また、図書館を拠点に、読み聞かせ、エプロンシアター、影絵、工作等の多彩なプログラムの読書イベント「もじもじ祭り」を自主的に準備運営し開催するなど、子どもの読書意欲の向上につながる活動を進めています。

近隣市町村の保育園等や市保健センター・市子どもセンターとも連携して、読み聞かせ会を実施するなど、様々な団体と連携しながら子育て支援にも取り組んでいます。

毎年広報を発行したりするなど、ボランティア団体としても積極的・精力的に活動に取り組んでいます。



ブックスタートプラス事業



ブックスタート事業

● 取組の成果と今後について

もじもじクラブの会員と花巻図書館職員との協力により、多くのプログラムが実施できました。また、前年度の内容に加えて様々な読書に関する活動を取り入れ、体験活動の幅を広げることもできました。参加者にとって飽きることのない充実した多彩な活動となり、幼児を中心とした親子や家族等に楽しんでいただくとともに、図書館や読書に関する活動への親しみが増し、読書の推進や読書活動への意欲向上に繋がる場となりました。今後、より多くの方に参加していただけるよう、従来以上に内容の充実や周知の工夫を図っていきます。

花巻市子ども読書くらぶ ～図書館へ行こう！見て、聞いて、やってみよう～

花巻市立花巻図書館（花巻市）

図書館基本データ（数値はH25年現在）

住所	岩手県花巻市若葉町三丁目16-24
電話番号	0198-23-5334
蔵書数	175,521冊
登録者数	26,757人

事業の目的・趣旨

子どもの読書習慣の定着を図り、本と親しむ喜びを実感してもらうとともに、調べ学習のコツを体得することを目的に、平成24年度に設置しました。

取組概要

花巻市子ども読書活動推進計画に基づき、平成24年6月から活動を開始しました。市内の小・中・高校生を対象に実施する「くらぶ活動」で、市内4つの図書館でテーマに沿ったさまざまな活動メニューを企画しています。

※平成24年度テーマ

→「ことば」

※平成25年度テーマ

→「はたらく」

地域の子どものたちが本を通じ、「知る」「調べる」「楽しさ」を体感するためのきっかけづくりをサポートしています。



平成24年6月の開講式

くらぶ開設記念のミニコンサートでは、会員が提案した市内の地名や名物もご当地ソング「たたりら花巻」に織り込まれました。

特徴

従来の一過性のイベントではなく、年間を通じた「会員制くらぶ」を設置し、毎年度設定するテーマに沿った活動を実施しています。

年間に数回開催する集会活動への参加と併せて自己学習にも会員各自が取り組んでいます。

開講式では、会員証を交付し、活動の都度スタンプを押してもらいながら、年度末には皆勤賞等も贈呈しています。

○平成24年度は、テーマの「ことば」に因み、アニメーションによる仲間づくりや手話・点字講習会、郷土の偉人に関連する国際交流学习、方言講座を行いました。

○平成25年度は、若者の就労サポート機関「ジョブカフェはなまき」と通年連携し、「はたらく」をテーマにしたお話しや絵本ライブを開催するとともに、介護施設を訪問しての見学のほか、就活体験ゲームを通じて面接の心構えや職場づくりについて学びました。また、乳幼児への絵本読み聞かせ体験や、食育講話学習、働く犬（盲導犬、災害救助犬等）と訓練士の仕事見学、花巻市特産「白金豚」の飼育・加工・レストラン見学等、幅広い内容に取り組んでいます。



グループホームでの大型紙芝居鑑賞



ブックスタート事業での読み聞かせ

● 取組の成果と今後について

クラブ活動後に、図書館で関連する本を読んだり、親子が一緒に参加することにより、図書館を活用する機会が増え、自己学習に取り組む会員も増えてきました。平成24年度1期会員は39名、参加者はのべ254名（保護者等含む）。今後は、図書館活用術が身につく仕掛けづくりや選択肢を増やしたプログラム作成、サポート体制の強化、他部局やボランティア等との一層の協働が課題となっています。

ページをひらく 未来を拓く ～読書ボランティアによる中学校での読み聞かせ～

胆江ゆめネットワーク（奥州市・金ケ崎町）

団体基本データ（数値はH25年現在）

設立年度	平成20年4月
会員数	48名
主な活動場所	えほんの森（奥州市・メイプル）
主な活動内容	読み聞かせ会、中学生への読書支援等

事業の目的・趣旨

自己形成を模索する多感な中学生に対し、読み聞かせ等を行い、大切な時期の読書離れをくい止め、心の栄養となることに資するため。

取組概要

○朝読書での読み聞かせ

→奥州市内の中学校で毎朝行われている朝読書の10分間に、読書ボランティアが各教室に入り、絵本等の読み聞かせを実施しています。

（平成24年度実績：奥州市内中学校9校で実施、のべ参加生徒数7,116名）

○中学生対象のブックトーク

奥州市内の中学校に、読書ボランティアが出向き、「戦争」や「出会い」、「生きる」、「東日本大震災」、「いわての中高生のためのおすすめ図書100選（岩手県教育委員会 発行）」等のテーマでブックトークを実施しています。

（平成24年度実績：奥州市内中学校9校で実施、のべ参加生徒数890名）



中学生対象のブックトーク

団体の特徴

「胆江ゆめネットワーク」は、胆江地区管内にある22の読み聞かせ団体が、市町や区を越えて相互の連携・協力を図って活動している団体です。親子ライブラリー「えほんの森」を活動拠点に、毎月1回、各所属ボランティア団体の特色を活かした読み聞かせ会を実施しています。また、小中学校や福祉施設等で開催される読書行事等へも協力し、子どもが読書に親しみ読書の楽しさを知る機会を提供し、子どもの自主的な読書習慣の定着を図っています。

平成22年度には、「読書ボランティアによる中学校での読み聞かせ」を実施しました。会員が中学校に出向き、朝の約10分間各教室で読み聞かせをしたり、ブックトークを行ったりしました。その後も、中学校側からの要望もあり、現在まで継続して活動しています。

また、団体独自で定期的にスキルアップのための自主研修を行い、常に新しい活動手法の開発等に力を注いでいます。

東日本大震災直後からは、復興支援の一環として、東京在住の演劇集団と連携し、被災地の子どもたちに「本場のお芝居」を届ける活動も行っています。



水沢メイプル・えほんの森



中学生を対象とした読み聞かせ

● 取組の成果と今後について

「中学生への読書支援」を行い、受ける側と届ける側の双方から高評価を得ることができました。「毎朝楽しみにして聞いていた(中学生)」「読書への関心が高まった(学校)」「生徒と関わることができて、幸せな時を過ごすことができた(ボランティア)」等の声があり、4年間の活動を通して、確かな手ごたえが感じられました。

今後も心に届く読み聞かせを心がけ、活動を一層充実させていきたいと思っております。

図書館が人を繋ぎ、地域をつくる ～東山和紙を通じたまちづくり～

一関市立東山図書館（一関市）

図書館基本データ（数値はH25年現在）

住所	岩手県一関市東山町長坂字町335-1
電話番号	0191-47-2243
蔵書数	58,482冊
登録者数	2,015人

事業の目的・趣旨

地域の伝統工芸品である東山和紙を継承するために資料の収集・保存・創出を行うとともに、講座等の開催による情報発信や利活用法の提案等を通じて地域の活性化に資する。

取組概要

「いちのせき元気な地域づくり事業」の一環として平成23年度から3年間、東山図書館が東山和紙振興のための事業を実施しました。

○H23年度「和紙を知る」

東山和紙の特性を知り、素材としての活用方法を探りました。

- ①ワークショップの開催
- ②地域書家等による揮毫作品展の開催
- ③東山和紙を使用した図書館展示作品の制作

○H24年度「和紙を広める」

東山和紙の資料を収集し、制作工程を絵本にし、配布しました。

○H25年度「和紙を使う」

日常的に和紙を使う機会を提案するため、和紙を素材にしたものづくり教室を開催しました。

- ①一閑張り、コサージュづくり、和綴じ本づくり教室
- ②教室終了後のアンケート調査による需要・要望の掘り起こしと生産者への還元
- ③東山和紙作品展への応募促進

特徴

産業振興を目的とする市役所東山支所産業経済課と連携して事業を展開しました。図書館の側としては、地域資料を創出し、伝統文化を継承することと、東山図書館としての特色づくりを目的として取り組みました。



「ためせ！東山和紙調査隊」

東山和紙をちぎったり、もんだり、ぬらしたりと、子どもたちの実験感覚で、和紙の特徴を体感しました。

手すき和紙職人の協力を得て、絵本「東山和紙」を制作し、市内の小学校に配布しました。



絵本「東山和紙」の制作



東山和紙使用の図書館展示作品

東山地域に縁のある宮沢賢治作品をモチーフにした東山和紙の張り子人形。季節によって入れ替えをして

● 取組の成果と今後について

「東山和紙」をテーマに継続して取り組んだことにより、東山和紙が東山図書館の特色として位置づけられました。また、取り組みを通じて、和紙を作る人（生産者）、支える人（行政）、使う人（消費者）とが結び付き、和紙を取り巻く環境を盛り上げ、まちづくりに貢献できたと思われれます。今後は、他地域の産業や伝統文化にも着目し、図書館事業を通じた新たなまちづくりに取り組みたいと思います。

本でつながろう 本で心を育てよう みんな一緒に
 ～読書の推進活動で地域住民の主体性を引きだし、地域コミュニティの活性化を～
 読書ボランティアおはなしころりん（大船渡市）

団体基本データ（数値はH25年現在）

設立年度	平成15年7月
会員数	31名
主な活動場所	大船渡市内等
主な活動内容	おはなし会/移動図書館/読み聞かせ講座等

事業の目的・趣旨

地域の子どもや住民が読書に親しむ機会を得て、読書を通して「生きていく力」を強めることで、復興に向かう機運を着実に醸成する。

取組概要

○読み聞かせおはなし会活動
 小学校・図書館・児童福祉施設等にて、月平均27回実施

○移動こども図書館事業
 大船渡市内全12小学校・子育て支援8団体・仮設団地等24カ所を専用車両で巡回し図書サービスを提供

○仮設団地で講座とお茶会
 仮設団地や地域集会所等を訪問し、回想法をとり入れた読み聞かせ講座とお茶会を開催

○地元民話の手作り紙芝居制作
 口伝の地域民話を紙芝居におこし、子どもや地域住民に読み聞かせを実施

○絵本作家の講演/ワークショップ
 毎年、著名作家をお招きし、交流に力点をのいた読書イベントを開催

○コミュニティFMラジオでの朗読
 朗読番組「おはなしのおくりもの」を担当（FMねまらいん）

団体の特徴

平成15年度の大船渡市立図書館主催「読書ボランティア養成講座」修了者の有志が、地域のお役にたてればと設立されました。おはなし会での絵本の読み聞かせなどの活動をとおして読書の動機付けを行い、また、お話を楽しむ心を育て地域の読書活動推進につなげることを目的としています。

2011年3月11日以降は、通常時の活動も続けながら、被災地である地元地域の子どもや住民の心のケアの一助となることを願って、精力的に復興支援事業も行っています。



地元民話の手作り紙芝居



仮設団地での図書貸し出しサービス



絵本作家によるワークショップ



仮設団地での読み聞かせ講座

● 取組の成果と今後について

地域の子どもたちが多くの書物に出会える機会、自分だけの大切な一冊に巡り合える機会を提供することに今後も取り組みます。確かな内的成長に結びつく潜在的な力を読書によって引き出せればと願うからです。また、地域においては「ひとりではない」「地域社会の一員である」ことを実感できるコミュニティ再生事業を継続して行い、住民の主体性をサポートしていきます。

読み聞かせ会「おはなしパレード」

歌とおはなし「クリット」(大船渡市)

団体基本データ (数値はH25年現在)

設立年度	平成16年2月
会員数	3名
主な活動場所	大船渡市内等
主な活動内容	読み聞かせ会、講演会開催等

事業の目的・趣旨

読書入門期にある幼児・児童に、絵本の読み聞かせ等を行い、物語に触れる機会を増やすことにより、子どもの心の成長を促すとともに、言語能力を高め、子ども一人ひとりの能力を引き出す。

取組概要

- 開催日時
第2,4土曜日 10:30~11:00
(他の行事と重なる場合は、中止する場合あり)
- 場所
大船渡市立図書館 おはなし室
- 内容
 - ・絵本の読み聞かせ
 - ・紙芝居の上演
 - ・昔語り
 - ・ストーリーテリング
 - ・数え歌 など
- 対象者
児童(低学年)
幼児とその保護者
- 参加費
無料
- 指導協力者等
 - ・読み聞かせボランティア「こころ」
代表者：今野美彌子
 - ・読書ボランティアおはなしころりん
代表者：江刺由紀子
 - ・歌とおはなし「クリット」
代表者：佐々木規子



「おはなしパレード」の様子

団体の特徴

歌とおはなし「クリット」は、大船渡市を始め近隣自治体を中心に活動している読書ボランティア団体です。

主な活動は、大船渡市立図書館が主催する読み聞かせ会「おはなしパレード」や「ブックスタート事業」への協力で、乳幼児、児童及び保護者に読書の楽しさを知ってもらうための取り組みを行っています。

また、団体としての事業として、市内外の保育園、小学校、介護施設など、本の読み聞かせを希望する施設を幅広く訪問し、絵本等の読み聞かせを通して、参加者が本に触れる機会の提供に努めています。

ほかにも、絵本作家の講演会を開催するなど、市民を始め県内各地の参加者が、絵本を身近に感じられるような活動にも取り組んでいます。



施設訪問での読み聞かせ



H24県読書推進運動功績者受賞

● 取組の成果と今後について

この取り組みを実施することによって、多くの方々の来館を促すとともに、本や図書館に親しむ機会を提供することができました。

事業周知については、館内掲示のほか、対象年齢児にチラシを配布したり、市の広報やホームページへの情報掲載、報道機関への情報提供等を行っています。更に参加者を増やす工夫を図っていきたいと思います。

語りかけることの大切さを伝えるために ～読書ボランティアによるおはなし会の取り組み～

田老かもめおはなし会（宮古市）

団体基本データ（数値はH25年現在）

設立年度	平成18年3月
会員数	4名
主な活動場所	宮古市内
主な活動内容	読み聞かせ、実演交流会等

事業の目的・趣旨

読み聞かせ活動をとおして、語りかけることの大切さを伝え、コミュニケーションの活性化と「ことば」と「ところ」の健全育成を図ります。

取組概要

○市内各地での「読み聞かせ」
→グリーンピア三陸みやこ仮設住宅（田老地区）、宮古市内の老人福祉施設、学童の家、各小学校、市内書店にて、被災した方々、老人、親子等を対象に、絵本や紙芝居等の読み聞かせ活動を実施しています。

○宮古市ブックスタート事業
フォローアップおはなし会
→宮古市立図書館、図書館分室において、家庭での親子のコミュニケーション活性化のための読み聞かせを実施しています。



リニューアルオープンした
宮古市立図書館田老分室での読み聞かせ

団体の特徴

田老かもめおはなし会は、宮古市教育委員会主催のおはなし会・ブックスタート事業を担う「よみきかせボランティア育成講座」の受講をきっかけに、田老地区を活動の場としたメンバーで結成されました。

広範囲に渡る場所への訪問活動を行い、地域に溶け込んだ活動を展開しており、読み聞かせ活動や学習会、啓発活動等を通して、乳幼児をもつ親子や小学生から老人まで幅広い年代に、読書の楽しさや重要性について広めようと努めています。

平成21年度には交流勉強会を通して読み聞かせの指導や環境整備の助言を行いながら、宮古市内の小学校の読書ボランティアを立ち上げに尽力しました。

平成24年度には、紙芝居・絵本選定と読み聞かせの実践交流会を立ち上げ、さらに、平成25年度には、新たに活動グループを加えながら発展させた、読み合わせ「WAっこの会」を発足させるなど、宮古地域において読書ボランティアグループのスキルアップとネットワークづくりを展開しています。

また、被災した市立図書館田老分室のオープンとともに精力的に読み聞かせ活動を行っており、絵本や紙芝居の読み聞かせを通して被災地での子どもの心を育む活動を継続しています。



宮古市山口公民館まつり



生涯学習ボランティア活動

「おはなし会」は、親や家族が子どもへ語りかけることの大切さについて考えていただく良い機会となっています。また、仮設住宅等での読み聞かせは、「ところ」をひらき、被災者同士をつなぐ場ともなっています。今後も復興に向けて環境が刻々と変化していく中で、生きること、海とのかかわり、友人との絆等を重視しながら、絵本や紙芝居の読み聞かせを通して被災地での子どもの心を育む活動を継続してまいります。

高校生が行う読み聞かせ活動 ～小学生、高校生、親…受け継がれる読書活動～ 伊保内高等学校『地域子ども読書会』（九戸村）

団体基本データ（数値はH25年現在）

設立年度	昭和56年4月
会員数	87名
主な活動場所	九戸村内
主な活動内容	読み聞かせ、紙芝居等

事業の目的・趣旨

小学生を対象とした読み聞かせ活動を通して、子どもの読書に対する関心を高めるとともに、郷土への愛着や理解を深める。

取組概要

- 毎年1月、『九戸村地域子ども読書会』を開催しています。
- 毎年11月に外部講師や連携する他団体を招き、紙芝居制作や読み聞かせ等に関する研修会を実施しています。
- 村の歴史や地域の民話に関する紙芝居の制作を行っています。
- 小学生を対象とした読み聞かせや紙芝居の実演を行っています。
- 老人福祉施設を訪問しての読み聞かせ活動を実施しています。



老人福祉施設を訪問しての読み聞かせ活動

団体の特徴

伊保内高校は、活字離れが叫ばれていた昭和56年から「読書の素晴らしさを伝えたい」という思いで、小学生を対象にした『九戸村地域子ども読書会』を開催しています。

この活動は、子どもたちと一緒に本を読んだり、読み聞かせを行ったりすることで、本に親しむ楽しさをともに味わいながら読書活動の啓発を図っていくものです。

毎年1月に開催されるこの読書会は、今年度で34回目を数え、小学生はもとより、村民の10～15%が参加する新春恒例の行事となり、親子の触れ合いや、地域コミュニティの形成にも大きく寄与しています。

さらに、読書を通して命の重さを伝えたいとの願いから岩手の偉人・宮沢賢治の作品を読み聞かせの題材にしたり、村の歴史や地域の昔話を紙芝居にして披露し、郷土への愛着や理解を深める伝承活動を行ったりするなど、さまざまな工夫をしながら活動の充実を図っています。



小学生に絵本の読み聞かせ



村内16会場で読み聞かせ会を開催

● 取組の成果と今後について

子どもたちが読書への関心を高めたり、図書館に足を運んだりするきっかけとなっていることが読書会後の感想などから読み取れます。また、長年にわたる活動により、小学校の頃に聞いた世代が高校生となり読み聞かせを行う立場になったり、さらに親となって自分の子どもと一緒に活動に携わったりするなど、読書会が世代を超えた活動として定着しています。今後も村内の各種組織と今まで以上に連携を図りながら活動を継続し、子どもたちの読書への関心と郷土への愛着や理解を深めていきたいと思っております。

走れ東北！ 移動図書館プロジェクト

～図書活動を通じた東日本大震災被災地支援～

シャンティ国際ボランティア会（大船渡市、陸前高田市、大槌町、山田町）

団体基本データ（数値はH25年現在）

設立年度	昭和56年
会員数	社員会員315名、賛助会員1,609名
主な活動場所	大船渡市、陸前高田市、大槌町、山田町等
主な活動内容	文庫、居場所づくり、おはなし会等

事業の目的・趣旨

東日本大震災津波により被災した沿岸地域において、住民が本に触れる機会を継続させるとともに、住民相互の交流機会を確保するため。

取組概要

○移動図書館活動

→2週間に1回のペースで仮設団地を訪問し、本の貸し出しのほか、住民相互の交流を進める場を設ける活動を展開しています。（4市町で26か所の巡回を実施）

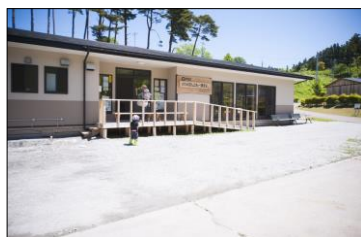
○コミュニティ図書室の運営

- ・陸前高田市モビリア仮設団地
- ・大槌町旧金沢小学校

→集会所としての機能もあわせもちながら、お茶が飲める、おしゃべりができる図書室として運営しています。

※活動実績

→平成23年7月から、県内4市町でのべ3万人に約5万冊の貸し出しを行いました。



陸前高田コミュニティ図書室

団体の特徴

シャンティ国際ボランティア会は、昭和56年、カンボジア難民キャンプで教育・文化活動を行うために設立されました。

その後、昭和60年には、タイのラオス難民キャンプで印刷活動を開始するとともに、タイ・チェンカーン、バンコク・スアンブルームラスで図書館活動を展開しています。

海外での活動としては、平成3年にカンボジア事務所、同4年にラオス事務所、同15年にアフガニスタン事務所をそれぞれ開設し、学校やコミュニティ図書室の建設、教員育成、文化活動支援などを行っています。

国内では、平成7年の阪神・淡路大震災での支援活動を行っており、今般の東日本大震災津波に際しては、発災直後から被災地に入るとともに、現地の状況や被災者のニーズを把握しながら、現地事務所として岩手県・遠野事務所、宮城県・山元事務所を開設し、被災3県で移動図書館プロジェクトを実施しています。



移動図書館での本の貸出



冬の移動図書館車

● 取組の成果と今後について

被災地において、図書館の持つ機能を活かした学びの場の提供と、地域コミュニティ形成の支援を目指し、住民の皆さんが、それぞれの生活に必要な情報（健康、法律、住まい、子育て等）が得られる場づくりを進めるとともに、相互の交流が図られるよう努めてきました。今後は、行政や地元自治会等とさらに連携を深めつつ、より地域が主体的に運営を進めていく姿の実現を求めていきます。

被災地で心の傷を負った子どもたちに絵本を… ～絵本による被災地支援活動～

3. 11 絵本プロジェクトいわて（盛岡市）

団体基本データ（数値はH25年現在）

設立年度	平成23年3月
主な活動場所	盛岡市中央公民館
主な活動内容	絵本の配送・読み聞かせ、絵本サロン等

事業の目的・趣旨

児童図書編集者・末盛千枝子さんからの「被災地で心の傷を負った子どもたちへ絵本を贈ろう」という提唱を受け、盛岡市中央公民館を拠点として進められているプロジェクトです。

取組概要

○配送・読み聞かせ

当初、絵本は対象年齢別に仕分けして避難所等に届けていました。現在は希望に沿って届けています。希望があれば読み聞かせも行っています。

○えほんカープロジェクト

被災地には、「えほんカー」（日本初軽トラック改造移動図書館車）で絵本を届けています。

○絵本サロンプロジェクト

参加ボランティアのアイデアで、いろいろな企画を考え、運営しています。

○寄贈活動

北は青森県八戸市、南は宮城県名取市までの16市町村を訪問し、絵本を寄贈しました。



えほんカーによる寄贈活動（大船渡市）

団体の特徴

このプロジェクトは、震災後の平成23年3月24日に発足し、同月31日からボランティアによる作業を開始して現在に至っています。全国からの協力により集まった絵本（0歳から小学生を対象とした絵本・児童書）は、平成25年2月末までに23万冊に達しました。

平成25年3月までに、277カ所で101,340冊の絵本を寄贈しました。「えほんカー」で自分の好きな本を選べるということで、被災地の子どもたちには大変喜ばれました。保育所では、保育士の先生にも絵本を選んでもらいました。また、被害の大きかった自治体（ボランティア団体含む）へ、絵本を満載した「えほんカー」を5台寄贈しました。

絵本サロンプロジェクトでは、絵本があって、ほっとできる場所を「絵本サロン」と名付け、被災地に住んでいる絵本好きの方々にノウハウを伝えていこうという『試して伝える』事業を行っています。

読み聞かせや絵本の寄贈以外にも、絵本の力を活用できる多様な活動について、今後も積極的に取り組むこととしています。



絵本プロジェクトによる読み聞かせ会



子育てサロン（手遊びや読み聞かせ等）

● 取組の成果と今後について

沿岸被災地では、街の復興が思うように進んでいないという状況が続いていることから、今後も継続的に活動していく必要があると考えています。被災地に寄り添いながら「何を必要としているのか見極め」、「何が出来るかをプロジェクト全体で考える」という、一貫した方法で、今後も支援を続けたいと考えています。

子どもたちへくあしたの本プロジェクト> にじのライブラリー

日本出版クラブ 日本国際児童図書評議会 出版文化産業振興財団

団体基本データ（数値はH25年現在）

設立年度	平成23年
会員数	日本出版クラブ、日本国際児童図書評議会、出版文化産業振興財団 賛助会員 他
主な活動場所	沿岸被災地域（岩手・宮城・福島3県）
主な活動内容	図書館バスの運行・図書館の運営・イベント開催 他

事業の目的・趣旨

東日本大震災により、被災地で不安を抱えている子どもたちに安らぎや楽しみを提供し、子どもたちの心をうるおすために、本と、本に関わるいろいろな活動を行う。（「子どもたちへくあしたの本>プロジェクト」より）

取組概要

○図書館バス運行

→毎月第2、第4の土日に、宮城県気仙沼市と石巻市を定期巡回します。

○にじのライブラリー運営

- ・陸前高田市気仙町今泉地区
- ・開館時間

土日祝 10～16時
水 13～18時

→集会的な活動も行い、お茶を飲んだり、ものづくりをしたり、人が集いお喋りしたりする場となっています。

○絵本作家の被災地訪問

- ・絵本の読み聞かせ
- ・紙芝居の上演
- ・お絵かきワークショップ
- ・着ぐるみショー など

○野馬追文庫・だいじょうぶだよセット

→毎月11日福島県南相馬市内にある仮設住宅集会所へ絵本を寄贈する活動

→児童施設や病院への本の寄贈する活動



団体の特徴

「子どもたちへくあしたの本>プロジェクト」は、（財）日本出版クラブ、（財）日本国際児童図書評議会、（財）出版文化産業振興財団が中心となった団体です。東日本大震災後の平成23年5月に前記の団体が呼びかけて活動がスタートしました。

主な活動は、図書館バスの運行、にじのライブラリーの運営、絵本作家の被災地訪問、「野馬追文庫」と「だいじょうぶだよセット」の寄贈活動です。

図書館バスの運行は、イトーヨーカ堂やセブンイレブンの店舗前駐車場で行われ、利用者は店舗へ本を返却できるシステムとしています。民間企業の協力がこの活動の大きな支えとなっています。

仮設子ども図書館「にじのライブラリー」は、陸前高田市気仙町の今泉地区で運営しています。遊び場が限られている状況の中、ここは子どもたちがおもちゃや本を広げてのびのび楽しめる空間となっています。また、集まる場所のなくなった大人にとっては、おしゃべりを楽しんだり、情報交換をしたり、ものづくりをしたり、くつろげる場として活用されています。



絵本作家によるイベント



図書館バス 福島県川俣町の幼稚園前で

● 取組の成果と今後について

被災地において、これらの活動が行われたことによって、親子・家族で同じ本を楽しんだり、会話が弾んだり、バラバラに離れてしまった住民が顔を合わせる機会となったりしている様子を目にしてきました。本をきっかけに会話が始まることは、被災地の復興を地域の人々が主体的に取り組んでいくきっかけともなっています。今後も本に親しめるような活動を続けていきます。

子ども図書館「ちいさいおうち」 ～ しなやかに、心豊かに育て！子ども達 ～ NPO法人うれし野こども図書館分館

団体基本データ（数値はH25年現在）

設立年度	昭和52年8月
会員数	正会員37名 賛助会員60名
主な活動場所	陸前高田市近隣
主な活動内容	図書館事業、子どもの読書に関わるイベント

事業の目的・趣旨

東日本大震災により瓦礫の山となった陸前高田市の子ども達に平穏な日常生活の感覚を取り戻し、安らぎの中で心を開放し本の世界を満喫してほしいという願いから子ども図書館を設置する。

取組概要

○開館日数・時間

→週5日、10時～17時

○基本業務

→図書の出借、読書案内、読み聞かせ、ストーリーテリング、レファレンスサービス、図書館だよりの発行（市内全小学生に配布）

○行事の開催

→季節や地域行事にちなんだ図書のテーマ展示（年8回程度）、読書キャンペーン（参加型図書展示/年1回）、おはなし会（月2回）、夏の夜のおはなし会、クリスマス会、わらべ唄あそびの会、蔵書を活用した工作教室（年3回程度）、絵本講座（対象：保護者、地元読書ボランティア、教育関係者/年4回）など

○館外活動

→市内の保育園・小学校でのおはなし会、子どもの本に関する講話、市ブックスタート事業協力、乳幼児健診での読み聞かせ。



絵本講座「スキップ♪スキップ♪絵本のせかい」

団体の特徴

子どもの時代に本の世界で十分に遊び、子どもたちが自分の想像力をかきたて物語の体験を豊富にすることによって、心を豊かに育て自分の言葉を自然に培っていく『読書』。その役を担いたくうれし野文庫として昭和52年に発足。2000年にNPO法人取得。図書室の開館—図書の出し、ブックトーク、ストーリーテリング、えほんの読み聞かせ等を実施。蔵書数約7,000冊、選書と働きかけを大切に行っています。

読書の輪を広げるため、講師を招いて講演会開催。ストーリーテリング講座、えほん講座、「大人のためのお話会」を実施。「子どもと本」について講師派遣。幼稚園、保育園、小・中学校へ語り手派遣。月例勉強会（ストーリーテリング、えほんの会）実施。2011年11月被災地陸前高田市に子どもの図書館「ちいさいおうち」を分館として開館、その運営・管理にあっています。2013年には大船渡市でえほん講座を開催。また、陸前高田市の小学校一校の図書館整備を始めました。内陸であれ、被災地であれ、子どもと本の世界で差は付けてはならないと、手の届く限り、出来る範囲で活動にいそしんでいます。



読書キャンペーンの一環として行った、工事車両と復興造成地の見学



小学生の見学受入。読み聞かせやブックトークも行います。

● 取組の成果と今後について

「ちいさいおうち」にくる子ども達は、みんなが主人公。子ども達の読書力は逞しく育っています。これまでの利用者は8,122人（H23年からH25年12月）。地域にしっかり根を下ろしました。子ども図書館として全国から注目の的になっています。選書された本が並び、1対1の読み聞かせから「お話のじかん」の実施。読書キャンペーンから様々なイベントの開催。陸前高田市に本設公共図書館が出来る時、全国に数えるほどしかない専門の「こども図書館 ちいさいおうち」の方針が生かされるよう願っています。